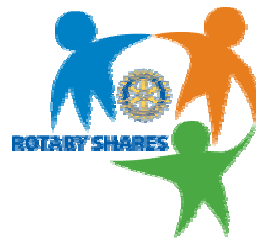


第 2236 回例会 逗子ロータリークラブ



WEEKLY REPORT

2007 - 2008 24 2007年12月20日

本日の進行 (18:30)

目指そう! 100%出席
忘年会
次回のお知らせ

1月10日(木)(18:30)

新年会・家族同伴
(日影茶屋)

会長 松井一郎 会長エレクト 長野芳剛 副会長 矢部光治
幹事 長野芳剛 SAA 山本三津子 会計 横瀬元治 広報委員長: 坂井 宰
E-mail: zushirc@sage.ocn.ne.jp Website: http://www.zushi-rc.com/

例会日・第1・3木曜日 12:30~13:30 第2・4木曜日 18:30~. 第5木曜日 18:00~

例会場・逗子市新宿 1-3-35「カンティーナ」 TEL: 046-870-6651

事務所・逗子市逗子 1-9-26 萬屋ビル 2F TEL&FAX: 046-873-0226

第 2235 回 例会記録 2007年12月13日

出席報告	会員数 46名(出席免除 8名)	出席数 24名	出席率 63.16%	前回修正出席率 65.79%
------	------------------	---------	------------	----------------

ゲスト: 小林菜穂様(かながわ湘南 RC) 角田様・小林様(逗子市青少年指導員連絡協議会)

会長談話 松井 一郎 会長

皆様こんばんは、いよいよ本年度も押し迫って来ました。私の年度も折り返し地点に着き、道中半ばですが、年頭に掲げた目標の重要事項が、まだ半分も達成されていません。半年経って、ほっとする間もなく、気を抜かずに後半も頑張っていく所存ですのでよろしくお願ひします。忘年会シーズンで、日々宴席の多い酒宴、乱舞の季節を迎え会員の皆様方におかれましては、連日奮闘の事と思ひます。忘年という言葉は、自分の老いを忘れる程面白く思ふこと。年齢の差を気にとめないこと。

合い学びあい、そして親睦を深め、社会に役立つ奉仕活動をしなが、人生の充足を味わえます。

もうこりた
忘己利他・・ロータリーは、「もうこりた」と言わず

に、己を忘れ、他に利を与えて下さい。

その年の苦勞を忘れること。

忘れるといひますと、ボケる・物忘れと言ったマイナスイメージがありますが、『年忘れ』自分が老いたのも忘れて年少の志を同じくする者と語り合い、忘れてしまったものを、話し合っているうちに誰かが思い出したり、答えをだしてくれる。大いに忘れ、そしてみんなで思い出す。これが大切だそうす。

本日の卓話、小林菜穂さんの「幹細胞の再生医療への応用」というテーマでお話をして頂きますが、会員の皆様方にとって、大変興味のある今後の為役に立つ内容だと思ひます。脳の働きを良くするには、散歩などの軽い運動、部屋の片づけ、料理、ガーデニング、音読そして挨拶、一言、ロータリー活動。ロータリーに出席することを生活のリズムにして下さい。また本日は、青少年指導員連絡協議会の角田会長と小林様に、来年1月26日開催される、中高生ディベート大会のPRに来て頂きました。会員の方々もお時間のある方は、参加して下さい。

ロータリー活動はまさに、老・壮・青の良き友と語り

年の瀬や 何事もなきを宝に 年の暮れ

報告

12月誕生・結婚記念日のお祝

本人: 福嶋謙之輔、菊池尚

奥様: 湊屋良子(孝之)

結婚: 橘克巳・由美子、坂井宰・敬子

12回中学生ディベート大会に協賛

1月26日(土)10:00~16:30

於: 逗子市役所5階会議室

主催: 逗子市青少年指導員連絡協議会

2007年7~12月退会会員

北沢泰一会員(R歴14年)

山本 勇会員(R歴13年)

上野尚之会員(R歴12年)

芝田 秀会員(R歴1年)





カナダについて

バンクーバーやカルガリーを始め、カナダ国内の様々な地に住んできた。ノバスコシア州ハリファックスという都市が最近まで住んでいたところである。カナダはオープンで、とても好感が持てる国だと思う。

自分が取り組む研究について

再生医療と幹細胞について研究している。幹細胞とは、未分化状態の細胞で色々な細胞に分化できる可能性があり、どう再生医療に役立つかを研究している。例えば臓器移植についていえば、臓器提供が間に合わずにならされる患者さんがある。幹細胞を再生医療に役立てる方法の一つとして、臓器を作っておくことができれば、もっとたくさんの人を救うことができるのではないかと。日本は他人からの臓器をもらって移植することにはとても抵抗を感じる文化を持つ人種である。また、倫理や精神、宗教上から考えるととても難しいものでもある。

現在の研究は、幹細胞から臓器を作って人体に移植し、働かせるというところまでの段階には至っていない。ラットへの応用実験の段階である。メディアでは幹細胞の再生医療に関する楽観的未來像を強調しすぎる傾向があるので、踊らされたくない。倫理的、社会的背景を考え、先端医療を推奨する医療従事者や基礎研究者だけではなく、一般人、人類学者、社会学者、倫理学者等の見解を考慮して、必要とされる、治療を受ける人々に納得のいく医療姿勢を確立する必要がある。また、幹細胞の研究の中にはES細胞と呼ばれる胎児から細胞をとるという大きな倫理的問題もある。医療、科学の発展に伴い、人間は死に対する考えが変わりつつあること

を実感する。

神経細胞がかかわってくる病気と幹細胞の治療への応用として注目を集めているのがアルツハイマー病、パーキンソン病、ハンチントン舞踏病などである。アルツハイマー病に限っては、何が原因かはまだ分かっておらず、対処法がないのが現状であり、病理像がわからないため画期的な治療法をみつけるのは大変困難である。アルツハイマー病は脳内で異常とされる部位がとても広く診断をすることも困難である。パーキンソン病はどこの限られた部位の脳細胞が死んでいるのかが分かるため、病理像がわかっていることもあり、治療方針をたてやすい。しかし、現状では、根本的な治療薬はなく、胎児由来の脳細胞を移植する、もしくは脳内に電極を差し入れ、電気的刺激をすることなどが行われている。また、ハンチントン舞踏病という病気がある。自分の意識とかかわらず、運動制御の部分が欠けるため、手足が意思に関係なくばらばらに動いてしまうため舞踏病という名前がついた。

私の実験はGABA神経細胞が脱落するハンチントン舞踏病についてである。自然流産した胎児を病院より許可を得て、脳細胞の一部をとり、未分化の状態の脳幹細胞を培養し、分化させGABAニューロンを作ることに成功した。このように、培養して大量に増やしていけば、多くの患者さんに必要な移植用細胞が確保できる。GABA細胞の移植実験というものもやっている。これはラットの脳内にあるGABA細胞を、薬物を使用して細胞死を起こさせ、数週間後に幹細胞由来のGABA細胞を移植し運動テストと記憶テストを実施する。移植後数週間運動テスト、記憶テストともに回復されていく結果が得られた。このような地道な実験の繰り返しから再生医療への応用へと発展していく。(職業分類：医療基礎研究 専門：理学博士 神経科学・幹細胞研究 かながわ湘南RC)

ニコニコBOX (43,000円)

松井君、矢部(光)君、長野(芳)君、市川君、船津君、赤池君、坂井君、山本(由)君、高橋君...小林菜穂様、スピーチよろしくお願ひします。
石田君...来週20日は忘年会です。皆さん出席よろしくお願ひします。目標100%出席。
藤吉君...100%出席例会、達成しよう!!
上野君...12年間お世話になりました。
湊屋君...女房の誕生祝を頂いて。
松田君...久しぶりです。
臼井君...一週間休ませて頂きました。
渡邊君、山口君、毛利君...年末です。今年もあと少しです。

矢部(房)...今年もあと僅か、お蔭様で出席できました。桐ヶ谷君...年末まで半年足らず、風邪など召されぬ様に。石渡君、村田君...お寒いです。寒いだけ。桐田君...寒くて寒くて、つらいです。鈴木(久)君...暮れの寒さが身に沁みます。山本(三)さん...寒すぎて、人肌恋し。青山さん...良いお年を！実は今年が最後です。杉本君...今年もあと僅か、そこで一句“海眺め 八十路を迎う年の暮”70歳台終わりです。

ニコニコBOX 本日合計 ￥ 43,000
累計 ￥ 1,143,024

編集だより

今回の卓話は、幹細胞が多様な細胞に変化するというお話だった。テクノロジーの進歩が人体の改造までに及んでいることは目覚ましいことである。病苦に苦しむ障害者にとって画期的な朗報である。しかし、講話の後に出された質問のように画一化社会となることの一抔の不安が残る。個性に違いがあるから友情や愛情が生まれる。健康優良者だけが作る社会が果たして幸福だろうか。講師の小林菜穂さんは心の持ち方で難病を抱えながら健常者と同様の生活をしている女性の例も紹介された。私も人生の終盤を迎え前向き生きたい。

クラブ会報委員長 坂井 幸